

【 復活のトロパリ 第7調 】

ハリスト オス か み よ 、 なんぢは じゅうじ か に て し を
 神 爾 十 字 架 死
 ほ ろ ぼ し 、 と う ぞ く の た め に ら く え ん を ひ
 滅 盗 賊 た め 楽 園 開
 ら き 、 け い こ う ぢ ょ の か な し み を な ぐ さ
 携 香 女 悲 慰
 め 、 し と に なんぢが ふ く か つ して 、 せ か 界
 使 徒 爾 復 活 世 界
 い に お お い な る あ わ れ み を た ま い し を つ た え
 大 憐 賜 傳
 さ せ た ま え り 。

【 日本の亜使徒ニコライのトロパリ 第4調 】

し と と ひ と し く ど う ざ な る も の 、 ちゅう
 使 徒 等 同 座 者 忠
 じ つ に し て し ん ち な る ハ リ ス ト ス の え き し ゃ 、 せ い
 實 神 智 役 者 聖
 な る し ん に え ら ば れ た る ふ え 、 ハ リ ス ト ス の あ い
 神 撰 笛 愛
 に み ち た る う つ わ 、 わ が く に の こう
 満 器 我 國 光
 し ょ お し ゃ 、 あ し と し ゆ き ょ う せ い ニ コ ラ イ
 照 者 亜 使 徒 主 教 聖

よ、なんぢのぼくぐんのため、および
爾羊群爲及

ぜんせかいのため、いのちをたもうせい
全世界爲生命賜うせい

さんしゃにいのりたまえ。
三者祈給

【 日本の亜使徒ニコライのコンダク 第4調 】

こうえいはちちとこおとせいしんにき
光榮父子おとせいしんき

す、

せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが
成聖者亞使徒聖我

くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ
國爾旅人及異邦人受

しに、なんぢははじめわがくににおいておの
爾は初我國於己

れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの
外來者知れども、ハリストスの

ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて
光暖かきをながし、爾のて

きをぞくしんのことなあし、かれらにか
屬神子爲あし、彼等神

みの おんちようを あた え、ハリストスのきょうか いを たて
 恩 寵 與 教 會 建
 た り、いまこのきょうか いのた めにいのり
 今 此 教 會 の 爲 に 祈
 た ま あ え、けだしわれらそのしよしはなん
 給 蓋 我 等 其 諸 子 爾
 ちによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
 呼 我 善 牧 者 慶
 べよ。

【 審判の主日のコンダク 第1調 】

いまもいつもよよに、アミン
 今 も 何 時 も 世 世
 かあみよ、なんぢがこうえいをもって
 神 あ み よ、 爾 光 榮 以
 ちにきたりて、ばんゆうがおののき、ひの
 地 來 り て、 萬 有 が 戦 の の き、 ひ の 火
 かわがしんばんざのまえにひき、きろくがひらか
 河 審 判 座 前 引 記 録 披
 れ、ひそかなることあらわれんとき、い至
 隠 事 顯 時
 たありてぎなるしんばんあんしゃよ、われをきえ
 義 審 判 者 我 滅

ぎるひよりのがれしめて、われになんぢの
火 脱 我 爾

みぎにたつをえしめたまえ。
右 立 得 給 え。

司祭) (黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有と
なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、
願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行おう者を棄てずして、其救の爲に痛悔
を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な
る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる者と
なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を
以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と
を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生
神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世
に、

アミン。

【 聖三祝文 】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
聖 神 聖 勇 毅 聖

じょうせいのものよ、われらをあわれめ
常 生 者 我 等 を 憐

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
 聖なるじょうせいのものよ、われらをあわれ
 めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
 せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
 れめよ。こうえいはちちとこせいしん
 神にきす、いまもいつもよよに、アミン。
 せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
 れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう
 き、せいなるじょうせいのものよ、われらを
 あわれめよ。

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、)

【 プロキメン 提綱 主日第7調 】

司祭) ^{つし き しゅうじん へいあん} 慎みて聴くべし、衆人に平安、

誦經) ^{なんぢ しん} 爾の神にも、

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{しゅ そのたみ ちから たま しゅ そのたみ へいあん ふく くだ} プロキメン、主は其民に力を賜い、主は其民に平安の福を降さん、

しゅ は その た み に ち か ら を た ま い 、 しゅ は
主 其 民 力 賜 主
その た み に へ い あ ん の ふ う く う を く だ
其 民 平 安 福 降
さ さん。

誦經) ^{かみ しょし しゅ けん こうえい せんき しゅ けん} 神の諸子よ、主に獻ぜよ、光榮と尊貴とを主に獻ぜよ、

しゅ は その た み に ち か ら を た ま い 、 しゅ は
主 其 民 力 賜 主
その た み に へ い あ ん の ふ う く う を く だ
其 民 平 安 福 降
さ さん。

誦經) ^{しゅ そのたみ ちから たま} 主は其民に力を賜い、

しゅ は その た み に へ い あ ん の ふ う く う を く 降
主 其 民 平 安 福
だ さ さん。

【 ^{アポストロス} 使徒經 140 端 コリント前書 8 章 8 節～9 章 2 節 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと} 聖使徒パヴェルが^{じん たつ} コリント人に^{ぜんしょ よみ} 達する前書の讀、

司祭) ^{つつし} 謹みて^き 聴くべし、

誦經) ^{けいてい} 兄弟よ、^{しょくもつ} 食物は^{われら} 我等を^{かみ} 神の^{まえ} 前に^た 立たしめず、^{けだしわれら} 蓋我等は^{くら} 食うとも、^う 得る^{ところ} 所なく、^{くら} 食

^{うしな} わずとも、^{ところ} 失う^{しか} 所なし。然れども^{つつし} 慎め、^{おそ} 恐らくは^こ 此の^{なんぢら} 爾等の^{じゆう} 自由は^{よわ} 弱き者の^{つまづき} 躓

^な と爲らん。蓋^{けだしも} 若し^{ひと} 人、^{なんぢちしき} 爾知識^{もの} ある者が、^{ぐうぞう} 偶像の^{みや} 廟に^ざ 坐して^{くら} 食うを見^み ば、^{かれよわ} 彼弱き者の^{もの}

^{りょうしん} 良心は、^{かれ} 彼にも^{ぐうぞう} 偶像に^{ささ} 獻げし^{もの} 物を^{くら} 食うを^{すす} 勧めざらんや。然らば^{しか} 爾の^{なんぢ} 知識に^{ちしき} 因りて、^よ

^{よわ} 弱き^{けいてい} 兄弟^{これ} ハリストスの^{ため} 之が^し 爲に^{ところ} 死せし^{もの} 所^{ほろ} の者は^{なんぢら} 亡びん。爾等^{ごと} 此く^{けいてい} の^{たい} 如く^{たい} 兄弟に^{たい} 對

^{つみ} して^え 罪を^{かれら} 獲、^{よわ} 彼等の^{りょうしん} 弱き^{きず} 良心を^{たい} 傷つけて、^{つみ} ハリストスに^う 對して^{ゆえ} 罪を^も 獲るなり。故に^し 若し

^{しょくもつ} 食物^わ 我が^{けいてい} 兄弟を^{いざな} 誘^{われなが} わば、^{にく} 我長く^{くら} 肉を^わ 食^い わざらん、^{いざな} 我が^{ため} 兄弟を^{ため} 誘^{ため} わざらん爲なり。

^{われしと} 我使徒^{あら} たるに^{われじしゅ} 非^{あら} ずや。我^{われ} 自主^{われら} たるに^{しゅ} 非^み ずや。我^{あら} イイスス^{あら} ハリストス^{あら} 我等の^{あら} 主^{あら} を^{あら} 見^{あら} しに^{あら} 非^{あら} ず

^{なんぢら} や。爾等^{しゅ} は^{おい} 主に^{われ} 於て^{わが} 我の^{あら} 工^{あら} たるに^{あら} 非^{あら} ずや。設^{たと} い^{われ} 我^た 他人^た の^{ため} 爲^{しと} に^{しと} 使徒^{なんぢら} たら^{なんぢら} ずとも、爾等^{なんぢら} の

^{ため} 爲^{これ} には^{けだしなんぢら} 是^{しゅ} なり、蓋^{おい} 爾等^{われ} は^{しとしょく} 主に^{いん} 於て^{いん} 我^{いん} の^{いん} 使徒^{いん} 職^{いん} の^{いん} 印^{いん} なり。

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ、食物は、わたしたちを神に導くものではない。食べなくても損はないし、食べても益にはならない。しかし、あなたがたのこの自由が、弱い者たちのつまづきにならないように、気をつけなさい。なぜなら、ある人が、知識のあるあなたが偶像の宮で食事をしているのを見た場合、その人の良心が弱い^{ため}、それに「教育されて」、偶像への^{供え物} を食べるようにならないだろうか。するとその弱い人は、あなたの知識によって滅びることになる。この弱い兄弟のためにも、キリストは死なれたのである。このようにあなたがたが、兄弟たちに対して罪を犯し、その弱い良心を痛めるのは、キリストに対して罪を犯すことなのである。だから、もし食物がわたしの兄弟をつまづかせるなら、兄弟をつまづかせないために、わたしは永久に、断じて肉を食べることはしない。わたしは自由な者ではないか。使徒ではないか。わたしたちの主イエスを見たではないか。あなたがたは、主にあるわたしの働きの実ではないか。わたしは、ほかの人に対しては使徒でないとしても、あなたがたには使徒である。あなたがたが主にあることは、わたしの使徒職の印なのである。

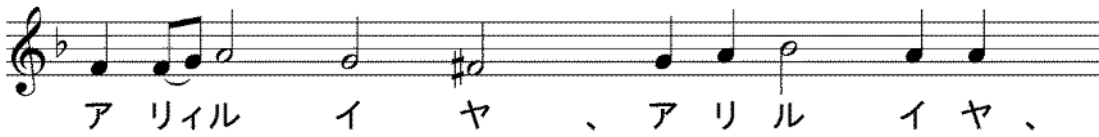
【 アリルイヤ 主日第7調 】

司祭) ^{なんぢ} 爾に^{へいあん} 平安、

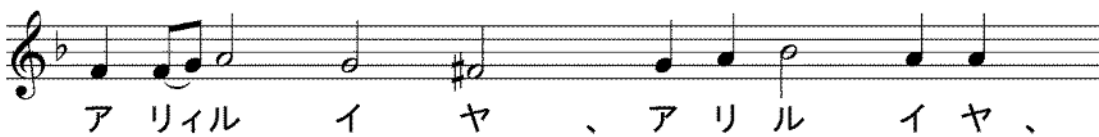
誦經) ^{なんぢ} 爾の^{しん} 神にも、

司祭) ^{えいち} 睿智、

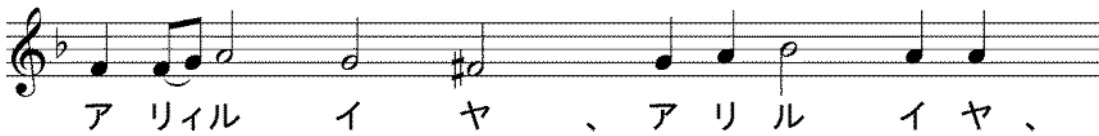
誦經) アリルイヤ、



誦經) ^{しじょうしゃ} 至 上 者よ、^{しゅ さんえい} 主を讚 榮し、^{なんぢ な うた び かな} 爾 の名に歌 うは美なる哉、



誦經) ^{なんぢ あわれみ あさ の なんぢ まこと よ の び かな} 爾 の 憐 を朝に宣べ、爾 の 眞 を夜に宣ぶるは美なる哉、



司祭) (黙誦: ^{ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん} 人を愛する主宰よ、我が 心 に神を知る智慧の 浄 き光 を輝 かし、我が思念

^{め ひら なんと ふくいん おしえ さと たま わ うち なんと ふく いましめ} の目を啓きて、爾 が福音の 教 を悟らしめ給え、我が衷に 爾 の福たる 誠 を

^{おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんと よろこ ところ} 畏るる 畏 をも入れて、我等が 悉 くの肉體の慾を踏み、凡そ 爾 の喜ぶ 所

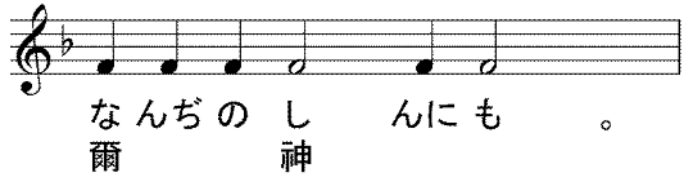
^{おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ} を思い且つ 行 いて、屬神の生活を通るを致させ給え、蓋 ハリストス神よ、

^{なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんと わげん ちち しせいしぜん} 爾 は我が 靈 と體 との光 照なり、我等 爾 と 爾 の無原の父と至聖至善にし

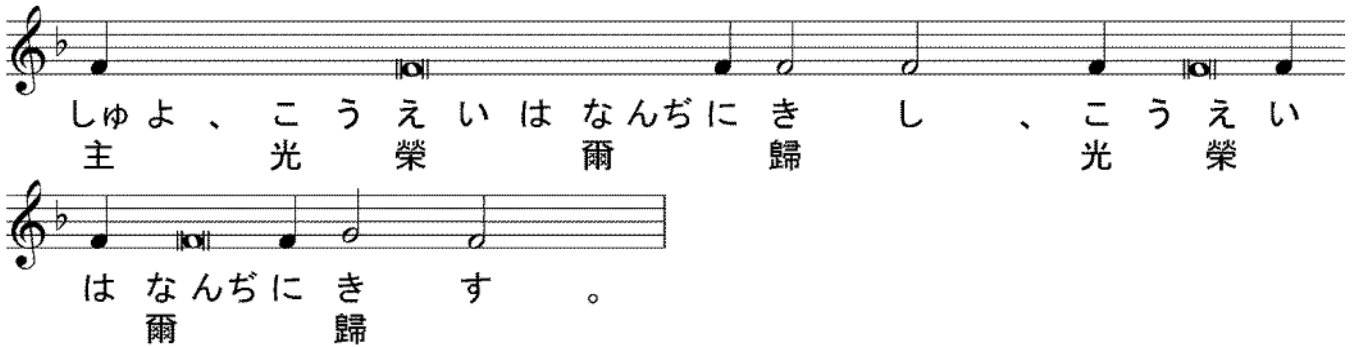
^{いのち ほどこ なんと しん こうえい けん いま いつ よよ} て生命を 施 す 爾 の神とに光 榮を獻ず、今も何時も世々に、アミン。)

【 ^{エヴァンゲリオン} 福音經 マトフェイ福音書106端 25章31~46節 】

司祭) ^{えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん} 睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、



司祭) ^{でん せいふくいんけい よみ} マトフェイ傳の聖福音經の讀、



司祭) ^{つつし き しゅい ひと こ そのこうえい もつ もろもろ せい てんし とも きた} 謹みて聴くべし、主曰えり、人の子は、其光榮を以て、諸の聖なる天使と偕に來

^{とき そのこうえい ほうざ ざ ばんみんかれ まえ あつま しこう かれ ぼくしゃ ひつじ やぎ} らん時、其光榮の寶座に坐し、萬民彼の前に集り、而して彼は、牧者の綿羊を山羊

^{わか ごと かれら あいわか ひつじ そのみぎ やぎ そのひだり お そのときおう みぎ} より別つが如く、彼等を相別ちて、綿羊を其右に、山羊を其左に置かん。其時王は右

^{あ もの い わ ちち しゆくふく もの きた そうせいらいなんぢら ため そな} に在る者に謂わん、我が父に祝福せられし者よ、來りて、創世以來爾等の爲に備え

^{くに つ けだしわ う とき なんぢらわれ く わ かわ とき われ の わ} られたる國を嗣げ。蓋我が飢えし時、爾等我に食わせ、我が渴きし時、我に飲ませ、我

^{たび とき われ やど わ はだか とき われ き わ や とき われ かえり わ} が旅せし時、我を宿らせ、我が裸なりし時、我に衣せ、我が病みし時、我を顧み、我

^{ひとや あ とき われ きた とき ぎじんらかれ こた い しゅ われらいつなんぢ う} が獄に在りし時、我に來れり。時に義人等彼に答えて曰わん、主よ、我等何時爾の飢

^{み く あるい かわ み の いつなんぢ たび み やど あるい} うるを見て、食わせ、或は渴くを見て、飲ませしか。何時爾の旅するを見て、宿らせ、或

^{はだか み き いつなんぢ や あるい ひとや あ み なんぢ きた おう} は裸なるを見て、衣せしか。何時爾の病み、或は獄に在るを見て、爾に來りしか。王

^{かれら こた い われまこと なんぢら つ なんぢら これ わ こ い ちいさ けいてい ひとり} 彼等に答えて曰わん、我誠に爾等に語り、爾等が之を我が此の至と小き兄弟の一人

^{おこな すなわちわれ おこな そのときまたひだり あ もの い のろ もの われ} に行いしは、即我に行いしなり。其時又左に在る者に謂わん、詛われし者よ、我

^{はな あくまおよ そのつかいら ため そな えいえん ひ ゆ けだしわ う とき} を離れて、惡魔及び其使等の爲に備えられたる永遠の火に往け。蓋我が飢えし時、

^{なんぢらわれ く わ かわ とき われ の わ たび とき われ やど わ はだか} 爾等我に食わせず、我が渴きし時、我に飲ませず、我が旅せし時、我を宿らせず、我が裸

^{とき われ き わ や また ひとや あ とき われ かえり とき かれら こた} なりし時、我に衣せず、我が病み、又は獄に在りし時、我を顧みざりき。時に彼等も答

^{い しゅ われらいつなんぢ う あるい かわ あるい たび あるい はだか あるい} えて曰わん、主よ、我等何時爾の飢え、或は渴き、或は旅し、或は裸なる、或

は病み、或は獄に在るを見て、爾に事えざりしか。其時彼等に答えて曰わん、我誠

に爾等に語ぐ、爾等が之を此の至と小き者の一人に行わざりしは、即我に行わ

ざりしなりと。此等の者は永遠の苦に往き、義人等は永遠の生命に往かん。

(比較用 口語訳) 主は言われた、人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来るとき、彼はその栄光の座につくであろう。そして、すべての国民をその前に集めて、羊飼が羊とやぎとを分けるように、彼らをより分け、羊を右に、やぎを左におくであろう。そのとき、王は右にいる人々に言うであろう、『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気の見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである』。そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか』。すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』。それから、左にいる人々にも言うであろう、『のろわれた者どもよ、わたしを離れて、悪魔とその使たちとのために用意されている永遠の火にはいつてしまえ。あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせず、かわいていたときに飲ませず、旅人であったときに宿を貸さず、裸であったときに着せず、また病気のとときや、獄にいたときに、わたしを尋ねてくれなかったからである』。そのとき、彼らもまた答えて言うであろう、『主よ、いつ、あなたが空腹であり、かわいておられ、旅人であり、裸であり、病気であり、獄におられたのを見て、わたしたちはお世話をしませんでしたか』。そのとき、彼は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。これらの最も小さい者のひとりにしなかったのは、すなわち、わたしにしなかったのである』。そして彼らは永遠の刑罰を受け、正しい者は永遠の生命に入るであろう。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえいは
主 光 榮 爾 歸 光 榮

はなんぢにきす。
爾 歸

※ 聖体礼儀③ (金口イオアン) へ